



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

第7回 中部大学 ESD研究・活動発表会

● 第7回中部大学 ESD 研究・活動発表会に参加しました。

中部大学で第7回中部大学 ESD 研究・活動発表会が行われました。この会を主催している中部大学国際ESDセンターは、持続可能な社会に向けて、研究や活動を支援し、学生、教員、職員がともに学びあう大学づくりを目指しています。その活動の一環として、中部大学で行われている、持続可能な社会に係わる研究・活動の発表の場として、「第7回ESD研究・活動発表会」が開催されました。

学生、教員がお互いの発表を通してお互いの研究・活動を知り、相互に影響しあい新たな発展へつながる場で、環境・エネルギー・防災・国際理解・国際紛争解決・マネジメント・生命・健康・医療・保健・文化・歴史・地理といった、幅広い分野で、学生による持続可能な社会に係わる研究や活動の発表および作品の展示が行われました。

その中に本校国際コース第2学年の生徒がプレゼンテーションをする機会をいただきました。

◆ 開催日時

平成28年6月22日(水)

◆ 開催場所

中部大学 リサーチセンター2階 大会議室



● 本校生徒による発表

国際コース第2学年の代表生徒2名が、グローバル課題研究で研究しているテーマについて英語で発表を行いました。

横井さんはインドネシアの水問題をとりあげました。インドネシアは急速に発展していますが、その陰で大気汚染や水質汚濁などの問題が起こっています。その中でも観光地であるバリ島に焦点を当て、水が茶色くなってしまい、使用できない水質汚染問題と、水不足のため地下37mから水をくみ上げ、雨の日などは地盤が緩み、地下水が濁ってしまっている問題をあげました。今後はこの問題をより深めて研究をしていくと結びました。

中瀬くんはフェアトレードについてとりあげました。開発途上国では、児童労働や低賃金等の労働上の問題、子供たちが学校に通えないなどの生活上の問題が数多く存在します。そのような問題を解決するため始まったのが、フェアトレードです。フェアトレードは身近に売られるようになってきてはいるものの、課題はまだ多く、フェアトレードが完璧であるとは言えません。私は、フェアトレードは「買ってあげる」という姿勢で参加してはいけないと考えています。誰も生活に困らないようにするための活動がフェアトレードだと結びました。

● 質疑応答

発表終了後、会場からは英語での質問がありました。

緊張しながらも、英語で返答することができました。

こうした発表の場を持ち、生徒の発信力やプレゼンテーション能力を高めていきたいと考えています。

